

自主臨床研究

栄養発育研究グループ

先天性甲状腺機能低下症に対する新生児マス・スクリーニング 検査陽性児における尿中総ヨウ素の臨床的検討

実施期間	2021年3月31日まで
研究機関	大阪大学医学部附属病院
主任研究者	三善陽子（准教授）
研究目的	ヨウ素は甲状腺ホルモンの合成に必須の微量元素であり、欠乏もしくは過剰により甲状腺機能異常を引き起こす可能性があります。我が国では先天性甲状腺機能低下症に対する新生児マス・スクリーニング検査が行われており、先天性甲状腺機能低下症マス・スクリーニングガイドラインでは、初診時の尿中総ヨウ素測定が推奨され、過剰が明らかな場合には一過性甲状腺機能低下の可能性があるため、治療方針決定に重要とされています。しかし、マス・スクリーニング陽性児での尿中総ヨウ素と臨床経過の報告は多くありません。そこで、新生児マス・スクリーニング陽性で大阪大学医学部附属病院小児科を受診した児の尿中総ヨウ素とその臨床経過について明らかにすることを目的としています。
方法	患者情報(性別、日齢、周産期情報、母体のヨウ素過剰の有無、栄養法)、マス・スクリーニングの結果、身体所見(身長、体重、頭囲、症状)、検査所見(TSH、FreeT4、FreeT3、サイログロブリン、尿中総ヨウ素)、画像検査所見(大腿骨遠位端骨端核の径、甲状腺超音波検査)、治療の要否、治療を要した方の治療内容、についてのデータをカルテより収集し、後方視的に検討します。
意義	先天性甲状腺機能低下症に対する新生児マス・スクリーニング検査陽性児における適切な治療介入につながると考えます。
対象	2012年1月から2018年1月に先天性甲状腺機能低下症に対する新生児マス・スクリーニング検査陽性のため大阪大学医学部附属病院小児科を受診した患者さんのうち尿中総ヨウ素を測定した方。

プライバシーの保護

プライバシー確保のため、患者さんが特定できないようにデータを処理した上で研究解析を行います。研究結果を公表する際には患者さん個人が特定されることはありません。

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また情報が本研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

大阪大学大学院医学系研究科小児科学

電話：06-6879-3932

担当 橘真紀子（医員）